

日本語と韓国語の接続助詞「～て」と「～해서」、「～하고」についての意味論的考察

—— 日本人学習者のための韓国語教育の観点から ——

巖 廷 美

1 はじめに

日本語の接続助詞「～て」に対応する韓国語の形態は数多くあるが、中でもっとも密接な対応関係を示すのが、接続形「～해서」と「～하고」である。「～해서」と「～하고」はそれぞれ様々な意味を実現しており、「～て」に対応する語として、両者の中でどれを選択するかは日本人の韓国語学習者にとっては悩みの種であろう。それは、「～해서」と「～하고」の意味の共有領域が互いに異なるからであることと、また、たとえ共有領域があるとしても、文の構文的及び文法的特徴によって、どの形態が使われるかは異なるからであると考えられる。

実際、誤用の例¹⁾を見てみると、「이 신청서에 필요 사항을 쓰고 제출해 주세요. (この申請書に必要な事項を記入して提出してください。)」のように、「～해서」と「～하고」の選択における誤りがほとんどなのである。

そこで、本稿では、「～て」と「～해서」、「～하고」の特徴について、主に意味論の側面から対照分析し、さらに「～해서」と「～하고」の意味関係をより詳しく考察することによって、日本人韓国語学習者の「～해서」と「～하고」の使用にお

1) 本稿で用いられた日本人の韓国語誤用の例は、1997年神田外語大の韓国語専攻の学生のもので、韓国YMCAで韓国語講座を受講している受講者のものである。いずれも、韓国語のレベルは上級以上であると判断できる。

ける誤用の原因分析の手係を探ってみたい。

2 「～て」、「～해서」、「～하고」の意味分類

2. 1 「て」

「～て」の使用領域は広く多岐にわたっているので、「～て」による接続のもたらす意味的、構文的関係のありかたを規定することは決して容易ではない。これまでの試みとしては、二つの流れがあると考えられる。一つは構文的関係に基づいた意味規定と（久野 1973：クタッシュ 1983：南 1974,1993）、もう一つは前件と後件の間の意味関係に基づいて詳細な分類をするものである（森田 1980：遠藤 1982：仁田 1995）。本項では、後者の意味的な面からの分類についての先行研究を概観する。それぞれの意味分類に基づく例文については、最後の先行研究のみにて示す。

(1) 森田 (1980)

- ① 〈並列〉 ② 〈対比〉 ③ 〈同時進行〉 ④ 〈順序〉 ⑤ 〈原因・理由〉 ⑥ 〈手段・方法〉 ⑦ 〈逆接〉 ⑧ 〈結果〉

(2) 遠藤 (1982)

- ①前件が後件の〈手段・方法〉を表す。
- ②前件が後件の〈様態〉を表す。
- ③前件が後件と〈同時に進行〉することを表す。
- ④後件が前件に続いて起こることを表す。〈継起関係〉
- ⑤後件が前件とほぼ同時に起こることを表す。〈付帯状況〉
- ⑥前件を原因・理由とする結果を後件が表す。〈因果関係〉
- ⑦前件に対する評価などを後件が表す。
- ⑧通常の因果関係に反することを後件が表す。〈逆接〉
- ⑨前件に対する〈並列・累加〉を後件が表す。

⑩前件に対する〈並列・対比〉を後件が表す。

⑪文脈依存度が高く意味を特定できないもの。

(3) 仁田 (1995)

① 〈付帯状態〉

② 〈継起〉—時間的継起、起因的継起

③ 〈並列〉

(4) 黄 (1995)

黄 (1995) は多様な文学作品から例文を取り出し、大きく三つの意味分類を行っている。以下に示すように、上記の先行研究で分類された意味領域を、その三つの意味領域のサブカテゴリーとして細分してから、さらに〈評価〉と〈結果〉の意味領域を設定している。

1) 文脈の順接 (①〈継起〉、②〈付帯状況〉、③〈手段・方法〉、④〈因果関係〉)

2) 並列 (⑤〈並列〉、⑥〈対比〉)

3) 逆接 (⑦〈逆接〉)

4) ⑧〈評価〉

5) ⑨〈結果〉

1) 文脈の順接

① 〈継起〉

前件の動作が先に起こり、後件の動作がそれに続いて生起する、といった単に時間の前後関係にあるものだけで、前件は後件が成立するための方法的要因や原因的要素とはとらえられていない。

例1) お嬢様は、ふと顔をあげて、じっと教会をみつめました。

例2) 学校へ行って、先生に会った。

② 〈付帯状況〉

前件の動作の結果が残っている状態で後件動作が展開し、前件動作が後件動作を修飾する性格を持っている。従って、前件動作と後件動作は同じ時間帯に存在する。

例 3) 邦男は慌てて寝床へ戻った。

例 4) 腕を組んで話す。

③ 〈手段・方法〉

先行生起した前件が後件を実現させるための方法的要因を示している。後件が前件の継起的動作・作用であることは〈付帯状態〉との差異を示す。

例 5) 注射を打ってもらって治した。

例 6) ……アメリカではこの方法を引き継ぎ、レーダーをも加えてハリケーンの進路をはかったが……

④ 〈因果関係〉

前件が後件の生起にとって原因や理由になっており、前後が因果関係を思わせるもの。動作を受けるものの時間的な先行関係は、〈継起〉に近づいているものが多いが、素材自身の間因果関係が認められること、形容詞などにつく場合もあることなどから、別項をたてる。

例 7) 雨が降って涼くなった。

例 8) 暗くて本が読めない。

⑤ 〈並列〉

前件と後件の動作や状態が同存並立する関係にあるもの。特定の主体がいろいろと行為を行なったり、様々な状態を兼ね添えていることを述べる場合である。動詞

の場合は、思い付くまま動作を列挙し、必ずしも行為や作用の生起順とは限らない。また、動作の前件が後件の動作に影響しない。前件と後件が互いに同じ範疇に属し、類似する属性を描写する点は、次の〈対比〉との違いを示している。

例9) しかし、もっとも重要にして本質的なことは……

例10) 彼女は背が高くて、目が丸くて、髪が黒いんだ。

⑥ 〈対比〉

同存する前件と後件は主述語が同類の事柄動詞の対比関係にあるものである。「AはBで、A'はB'だ」のように「て」による接続した前件と後件の主語・述語が互いに同類の事柄同士の対応となるとことが特徴である。

例11) 南の国は暑くて、北の国は涼しい。

例12) おじいさんが山へ行って、おばあさんが川へ行きました。

⑦ 〈逆接〉

前件が示す状況から予想される結果に反する事態が後件にくる、といった関係にあるもの。前件が後件の成立状況を示すが、後件は前件に対する否定的な意味を表す。後件が前件と矛盾する事柄か、逆説的な事柄である。〈逆接〉は動詞又は「～している」、「～しておく」などの補助動詞についている動詞にしか使われない。

例13) 一ヶ月近く同じ所に住んでいて、始めて彼に触れた。

⑧ 〈評価〉

後件に「いい、悪い」のような話し手の評価、判断を直接に表す語句がくるもの。

例14) 生れる前から親に結婚相手を決められてしまうなどということがあっ

ていいものだろうか。

⑨ 〈結果〉

仮定の結果が一般論となり、既定の結果は具体的事実となるような場合。体言述語となる場合が多い。

例 15) かつて、日満側に投獄された同士たちは、短くて三ヶ月から五ヶ月、長くて三年から五年、中には約十年も獄に繋がれていた・・・

黄 (1995) によると、用例の割合から考えると、①から④は全体の 91.6% を占めており、「～て」接続形の中心的な用法であるとしている。

2. 2 「～해서」

「～해서」についても、これまでにいろいろな研究がなされてきたが、それらのほとんどは構文のおよび文法的な側面における研究で、意味的側面を重視した研究ではない。ここでは、意味的側面を重視した代表的な先行研究（南基心 1978、権在淑 1994）について見てみる。

(1) 南基心 (1978)

記述的研究によって「～해서」の意味分類を行っているもので、以下のように 2 分類している。

① 〈原因〉、② 〈継起〉

(2) 権在淑 (1994)

7 種類の小説と戯曲から「～해서」の実際の用例を収集し、論者自身の内省による分析を行なった研究である。

① 〈先行〉

前件・後件が時間軸にそって前後の動作が羅列されているもの。(=「～て」の継起)

例1) 전 밖에 나가서 해장국이라도 먹겠습니다. (私は外に出てヘジャンククでも食べます。)

② 〈原因・理由〉

前件が後件の原因・理由になるもの。(=「～て」の因果関係)

例2) 너는 늙지 않아서 모른다. (あなたは年取っていないから知らないんだよ)

③ 〈様態〉

前件の結果が後件にまで及んで、後件の動作の形容・説明となっているもの。(=「～て」の付帯状態)

例3) 여자가 흰 코트를 입고 비에 흠뻑 젖어서 들어선다.
(女が白いコートを着て、雨にすっかりぬれて入ってくる)

④ 〈条件〉

後述することがら(後件)の時間的条件を表すものと、文副詞的なもの。

例4) 2세를 생각해서 타당성도 있지만, 여자란 항상 남자보다 작아야 매력적이지! (2世を考えて妥当性もあるけれども、女はいつも男より小さくないと魅力的でない。)

⑤ 〈手段・方法〉

後述する事柄をなすための手段・方法をあらわすもの。(=「～て」の手段・方法)

例 5) 그 놈은 나를 이용해서 팔자를 고치려고 하는 비열한 인간이다.

(あの野郎は私を利用して自分の人生を直そうとする卑劣な人間である。)

権(1994)によると、各機能の出現頻度は〈先行〉(188回 / 38.4%)、〈原因・理由〉(185回 / 37.8%)、〈様態〉(69回 / 14.1%)、〈条件〉(29回 / 5.9%)、〈手段・方法〉(18回 / 3.7%)で、〈先行〉、〈原因〉・〈理由〉、〈様態〉が「～해서」の中心的な意味機能であるとしている。つまり、「～해서」が担っている主な意味的役割は〈先行〉、〈原因〉・〈理由〉、〈様態〉であると言える。

2. 3 「～하고」

「～하고」の意味的側面から分類した代表的な先行研究である南基心(1978a)と鄭鉉淑(1996)について概観する。

(1) 南基心(1978a)

① 〈空間的羅列〉

二つの事柄を時間的前後関係に関係なく単純に空間的に羅列する。

② 〈時間的羅列〉

二つの事柄を時間的前後関係に従って羅列するもので、a) 同時羅列、b) 順次羅列、c) 完了羅列をその下位分類としておいている。

(2) 鄭鉉淑(1996)

① 〈先行〉(=「～て」の〈継起〉、「～해서」の〈先行〉)

例 6) 우리는 몸을 땀고 군목의 세탁된 군복을 빌려 걸쳤다.

(私たちは体を綺麗にして軍牧の洗練された軍服を借りて掛けた。)

② 〈原因・理由〉 (= 「～て」の〈因果関係〉、「～해서」の〈原因・理由〉)

例7) 아버지의 눈총을 받고 그만둔다.

(お父さんの睨みを受けてやめる。)

③ 〈様態〉 (= 「～て」の〈付帯状態〉、「～해서」の〈様態〉)

例8) 그래서 만 사람이 널 업고 다녔지.

(それで他の人が君をおんぶして歩いたんだ。)

④ 〈同時〉 (= 「～て」の付帯状態、「～해서」の〈様態〉)

例9) 이런 식으로 오래 끌고 가지는 못할 겁니다.

(こんなふうに長く引き伸ばしていくことはできないでしょう。)

⑤ 〈並列〉 (= 「～て」の〈並列〉)

例10) 교하택은 원통하고 부끄러웠다.

(キョウハは悔しくてまた恥ずかしかった。)

⑥ 〈条件〉

前件が後件を制約する場合。(= 「～해서」の〈条件〉)

例11) 고급 코냑 한잔 주고 조카 따님 사진 보여 주신다고 했잖아요?

(高級コニャク一杯くれて、姪の写真を見せてくれると言ったじゃないですか。)

鄭鉉淑(1996)によると、各職能の出現頻度は〈様態〉(188回/38.4%)、〈並列〉(185回/37.8%)、〈先行〉(69回/14.1%)、〈同時〉(29回/5.9%)、〈原因・理由〉(18回/3.7%)で、〈様態〉、〈並列〉、〈先行〉、〈同時〉、〈原因・理由〉が「～하고」の中心的な意味職能であるとしている。つまり、「～하고」が担っている主な意味役割は、〈様態〉、〈並列〉、〈先行〉、〈同時〉、〈原因〉・〈理由〉であるということになる。また、「～해서」と比べると若干広い意味領域を持っていることがわかる。

3. 「～て」、「～해서」、「～하고」の特徴

3. 1 用法間のつながり関係

「～て」、「～해서」、「～하고」の諸意味はお互いに明確に一線を隔すものではなく、諸用法が互いにつながりをもっていて、共有する意味領域が存在する。共有し合える意味領域を取上げると以下ようになる。

(1) 「～て」

〈継起〉と〈付帯状態〉、〈付帯状態〉と〈手段・方法〉、〈継起〉と〈因果関係〉
〈継起〉と〈手段・方法〉、〈付帯状態〉と〈因果関係〉

(2) 「～해서」

〈先行〉と〈様態〉、〈先行〉と〈原因・理由〉、〈先行〉と〈手段・方法〉、
〈原因・理由〉と〈手段・方法〉

(3) 「～하고」

〈先行〉と〈様態〉、〈様態〉と〈同時〉、〈同時〉と〈並列〉
〈先行〉と〈様態〉と〈原因・理由〉

3. 2. 「～て」、「～해서」、「～하고」の意味の共通領域

これまで日本語と韓国語の接続助詞「～て」と「～해서」、「～하고」のそれぞれの意味領域とそれぞれの接続助詞の中の意味的共通領域についてみてみた。本項ではこれら三つの接続助詞が互いに共有している意味領域を考察してみる。すべての助詞において共通する意味領域は以下の表ようになる。

表1 「～て」、「～해서」、「～하고」の共通意味機能

「～て」	「～해서」	「～하고」
〈継起〉	〈先行〉	〈先行〉
〈因果関係〉	〈原因・理由〉	〈原因・理由〉
〈付帯状態〉	〈様態〉	〈様態〉 〈同時〉
〈並列〉 〈対比〉		〈並列〉
〈手段・方法〉	〈手段・方法〉	
〈逆接〉		
〈結果〉		
〈評価〉		
	〈条件〉	〈条件〉

「～て」の固有の意味領域には〈逆接〉と〈結果〉、〈評価〉があり、他の意味は「～해서」か「～하고」に対応している。「～해서」と「～하고」を比べてみると、〈手段・方法〉の意味は「～해서」にしかあらわれず、〈並列〉の意味は「～하고」にしかあらわれないので、日本人学習者の韓国語の接続助詞の選択の際に、頻繁に誤用が起こる項目ではないと予測できる。しかし、「～て」の〈継起〉、〈因果関係〉、〈付帯状態〉は「～해서」と「～하고」両方とも対応することができる。そのため、日本人学習者にとって、誤用が起こりやすい意味領域であるといえよう。

従って、韓国語教育における誤用の原因分析のためには、〈先行〉、〈原因〉、〈理由〉、〈様態〉の意味機能における「～해서」と「～하고」の共通した意味領域および異なる意味領域、すなわち、言い替え可能な場合と不可能な場合を明らかにしなければならぬと考える。

4. 「～해서」と「～하고」の意味の共通点および相違点

本項では、「～해서」と「～하고」の用法の特徴を考察するために、意味の共通領域である〈先行〉、〈原因・理由〉、〈様態〉における「～해서」と「～하고」の言い替えの可否について用例を通して見てみる。前件と後件の用言（主に動詞）の性質によって、その相違点を考察する。

4. 1 〈先行〉

(1) 言い替え可能な場合

まず、後件を行なう過程として前件を行なったという場合であり、前件を行ってから後件を行なう順序的なもので、前件と後件が互いに関連している。いわゆる、〈先行・順序〉という性質をあらわすと言える。

例 15) 우리는 장비를 챙기고 배낭을 메었다.

(私たちは装備を準備してリュックを担いだ。)

例 16) 서로 상대방 걸 사고 포장센터에 가서 예쁘게 싸고 반짝거리는 리본을 달고...

(お互いに相手のものを買って、包装センターに行って綺麗に包装し、輝くリボンをつけて...)

次に、後件の用言の行為および結果を実現するための手段を前件の用言が示している〈先行・手段〉の場合である。

例 17) 온갖 알랑방구는 혼자 다 귀고, 재산을 혼자 끌격하겠다 이거지.

(あらゆるお世辞は全部言って、財産を一人締めにしたいということでしょう)

例 18) 우리의 어깨죽지에 천사처럼 날개를 달게 하고 마음대로 날아다니

厳：日本語と韓国語の接続助詞「～て」と「～해서」、「～하고」についての意味論的考察

며 곳곳에서 선행을 하여 행복을 맛보게 하였다.

(われわれの肩に天使のように羽をつけさせて、好きなところに飛び回りながら、あちこちで善行をし、幸福を味わわせた。)

(2) 言い替え不可能な場合

後件の用言が [移動動詞]、[起居動詞]、[寝起動詞]²⁾ の場合は言いかえが不可能である。

例 19) 우린 손발이나 좀 씻고 (≠ 씻어) 오겠다.

(私たちは手足を洗ってきます。)

例 20) 의사는 거기 버릴 것을 버리고 (≠ 버려서) 침대 곁에 있던 의자 위에 앉으며 등받이 귀퉁이에 봉지를 걸어 놓는다.

(医者はそこに捨てるものを捨ててベッドの横に会ったいすの上に座りながら背もたれの角に袋を掛けておく。)

例 21) 어젯밤 어머니가 뵙고 (≠ 뵈서) 자라고 한말이 생각나서 한말이 아니었다.

(夕べ母に会って寝るといわれたことばが思い出されたからではなかった。)

次に、前件と後件の意味的な事柄の関連性なく、ただ、時間軸に添って、単に次の動作が連なっている場合で、前件の用言と後件の用言が具体的な動作をあらわす意志動詞の場合が多い。

例 22) 언제나 그렇듯이 지루한 내용일 뿐이어서 류씨는 스위치를 끄고 (≠ 꺼서) 창가로 고개를 돌렸다.

(いつもそうであったように退屈な内容だったので、りゅうさんはスイッチを消して窓際に頭をまわした。)

2) [서다],[일어서다]などが起居動詞であり、[자다],[일어나다]などが寝起動詞である。

4. 2. 〈原因・理由〉

基本的に言い替え可能であるが、言い替えると文の意味に不自然さが残る。前件の用言が [知覚動詞]、[精神動詞]³⁾ の場合は言い替えることはできるが、言い替えると文の意味に少々不自然さを残す場合である。

例 23) 벌써 여기 온걸 다 알고 거는 전화야!

(もうすでにここに来たことを知って電話するのかよ。)

例 24) 너무 제 재주만 믿고 너무 꼭대기까지 올라 갔다가,

(あまり自分の能力だけを信じてあまり行くところまで行ってしまって、)

4. 3. 〈様態〉

〈様態〉の「～하고」は「～해서」と言い替えが不可能である。つまり、〈様態〉に前接する動詞が「～해서」に前接した場合、その「～해서」の意味は〈様態〉にならないのである。〈様態〉に前接する動詞には[携帯動詞]、[所有動詞]、[把握動詞]、[同伴動詞]⁴⁾ などがある。

例 25) 그 사람은 모래 주머니를 넣은 배낭을 메고(≠메서)산길을 달리는,

(その人は砂のバッグを入れたリュックを担いで山道を走る、)

例 26) 잘 여기서 데리고 (≠데려서) 나가 주세요.

(私をここからつれて出てください)

3) [듣다],[눈치채다],[보다],[알다]などが知覚動詞であり,[믿다],[이해하다],[바라다]などが精神動詞である。

4) [잡다]などは把握動詞、[업다],[지다],[차다]などは携帯動詞、[데리다],[모시다]などは同伴動詞である。

5. おわりに

本稿では、日本人韓国語学習者の韓国語の接続助詞「～해서」、「～하고」の使用にける誤用の原因分析のために、日本語と韓国語の接続助詞「～て」と「～해서」、「～하고」の意味論的使用における特徴を対照考察した。その結果、「～て」と「～해서」、「～하고」には意味の共通の領域とそれぞれ言語の独自の意味領域があることが分かった。中心的な意味領域の中で、「～て」においては〈逆接〉が、固有の意味領域であることが分かった。これは、「～て」の〈逆接〉の意味は韓国語の「～해서」と「～하고」では対応できず、別の表現を用いなければならず、それについての指導が必要になることを示唆するものである。

また、「～해서」と「～하고」の意味領域を比較考察すると、〈手段・方法〉は「～해서」の固有領域で、〈並列〉は「～하고」の固有の意味領域であることがわかった。これは日本人学習者にとっては、「～て」に対応する助詞として「～해서」と「～하고」のどちらかを選択しなければならず、誤用がおきやすい意味領域である。そこで、両助詞の言い替え可能な場合と不可能な場合を調べた結果、〈先行〉においては、後件の用言が「移動動詞」、「起居動詞」、「寝起動詞」の場合は言い替えができないことがわかった。また、〈原因・理由〉においては、基本的には言い替えは可能であるが、前件の用言が「知覚動詞」、「精神動詞」の場合は言い替えると意味的に不自然な文になることもあることが分かった。また、〈様態〉では言い替えは不可能であった。

以上の先行研究の結果を踏まえた分析結果から、日本人学習者に対しての韓国語の接続助詞「～해서」と「～하고」の教育においては、その意味領域における個別的特徴を学習者に教育する必要があるのではないかと思う。

主な参考文献

遠藤裕子 (1982) 「接続詞「て」の用法と意味」『音声・言語の研究』第二号 東京外国語大

学音声学研究室

- ジョージ・クタッシュ (1983) 「「内接節」と「外接節」-複文構成の二つの類型「シテ」形接続を例として-」『日本語学』10月号
- 久野 (1973) 『日本語の文法』大修館
- 黄淑妙 (1997) 「「て」接続形に対応する中国語の類型」『言語情報科学研究』東京大学言語情報科学研究会
- 仁田義雄 (1995) 「シテ形接続をめぐって」『複文の研究 (上)』くろしお出版
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館
(1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語 2』角川書店
- 남기심 (1978) 「아서의 화용론」『말 3』연세대학교한국어학당
- 権在淑 (1994) 「現代朝鮮語の接続形Ⅲ～해서について」『朝鮮学報』第 152 号 朝鮮学会
- 鄭鉉淑 (1996) 「現代朝鮮語接続形～하고について-その意味・用法をめぐって」『朝鮮学報』第 161 号 朝鮮学会